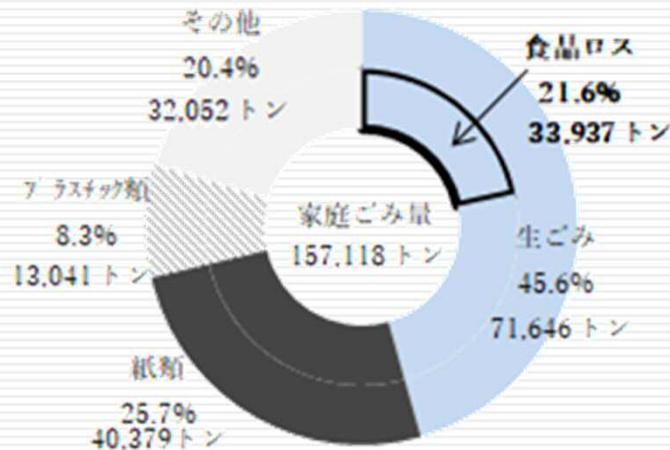


北九州市の 食品ロス削減に向けた取組み

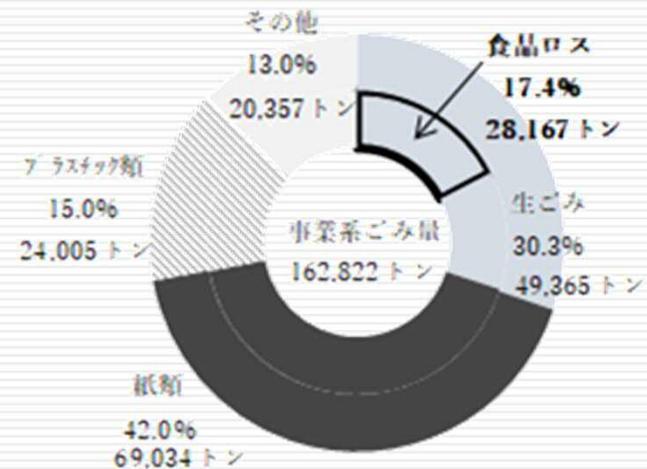
平成30年11月12日

北九州市環境局循環社会推進課

食品廃棄物 及び 食品ロス発生状況



家庭ごみ組成(H29年度)



事業系ごみ組成(H28年度)

<組成調査結果>

○家庭系 (H29年度)	食品廃棄物 (生ごみ)	7万トン
	そのうち、食品ロス	3.4万トン
○事業系 (H28年度)	食品廃棄物 (生ごみ)	5万トン
	そのうち、食品ロス	2.8万トン

※上記の事業系には、産業廃棄物は含んでいない

発生抑制

本市の食品ロス対策

「北九州市循環型社会形成推進基本計画」

- ・抑制に向け、「残しま宣言」運動などの食品ロス対策を推進



残さず食べましょう



生ごみを捨てる前に
水を切りましょう



発生抑制 ～食品ロス対策～

「残しま宣言」



「残しま宣言」 市民一人ひとりができること

外食時の取組み

- 一. 食べ切ることができる量を注文します！
- 一. 宴会時に食べ切りを声かけします！
- 一. グループ間で料理をシェアします！
- 一. 食事を楽しむ時間をつくります！ ※ 開始後30分、終了前10分など
- 一. 注文した料理は食べ切ります！



家庭での取組み

- 一. 必要以上に買いません！
- 一. 買った食材は使い切ります！
- 一. 作った料理は食べ切ります！
- 一. 生ごみを捨てる時は水を切ります！
- 一. 賞味期限と消費期限の違いを理解します！



発生抑制 ～食品ロス対策～

「残しま宣言」運動 取組例



リデュースクッキング講座

家庭向け

3切りを含む「残しま宣言」の周知

リデュースクッキング講座

未就学児への啓発（紙芝居及び動画）

等

発生抑制 ～食品ロス対策～

未就学児向け啓発（紙芝居及び動画）



【紙芝居内容】

- タイトル：『ばっかり王子とのこしま仙人』
- 枚数：12枚（動画8分）
- あらすじ：食べ物を残してばかりいる「ばっかり王子」と、その行動を改めさせようとする「のこしま仙人」のお話。仙人や怪獣との不思議な体験を通して、好き嫌いや食べ残しをなくすような構成としている。



発生抑制 ～食品ロス対策～

「残しま宣言」運動 取組例（事業所）



事業所向け

【残しま宣言応援店の例】
来店者の希望に応じ食事の量を調整

「残しま宣言」応援店（募集・広報）

食べ切りキャンペーン

等

発生抑制 ～食品ロス対策～

食べ切りキャンペーン



残しま宣言応援店

食べ切りキャンペーン

キャンペーン期間
平成29年11月24日(金)～平成30年1月21日(日)
応募は平成30年2月9日(金)まで。ハガキは当日消印有効

今回、キャンペーン参加店舗で料理を食べ切ると、抽選で合計300名にエコグッズをプレゼントします！

開催場所
市内の食べ切りキャンペーン参加店舗
(裏面の203店舗)

抽選で300名に当たる

④ 真空保温調理器:10名 ⑤ レジカゴクーラーバッグ:290名

応募方法

- ハガキ裏面と裏面のアンケートを記入
- 切手を貼ってポストへ
- 残さず食べて応募ハガキをゲット!
- ハガキ裏面のQRを読み込み、応募番号を入力

※抽選の抽籤の用意は、裏面の申込をもってください。
※抽選の抽籤は、1人1回につき1回のみとします。
※抽籤は、応募ハガキの記入日または記入日直後の日または抽籤日とさせていただきます。
※応募から抽籤までの期間は、キャンペーン期間に適用することになります。
※1つの応募番号で、複数応募はできません。

外食時の食べ切りを促進するために、「残しま宣言応援店」で食べ切った方に抽選でエコグッズが当たる「**残しま宣言 応援店食べ切りキャンペーン**」を実施

キャンペーン概要

- 1 キャンペーン期間
H29年11月24日～H30年1月21日まで
- 2 実施場所
市内のキャンペーン参加店(203店舗)
- 3 応募方法
①参加店舗で食べ切って応募はがきをもらう。
②はがきに必要事項及び希望のエコグッズを記入し、応募する。
- 4 エコグッズ
真空保温調理器またはエコバッグ

リサイクル ～食品廃棄物対策～

家庭向け ～生ごみコンポスト（堆肥化）講座～

「北九州市循環型社会形成推進基本計画」

家庭での食品廃棄物（生ごみ）資源化（堆肥化）の推進

市民向けの生ごみコンポスト化講座を開催



<生ごみコンポスト化講座>

- 事業開始：H21年度～
- 実施回数：145講座
- 受講者数：延べ約5,400人

※H29年度末現在

リサイクル ～食品廃棄物対策～

事業所向け ～リサイクル事業者による堆肥化～

「北九州市循環型社会形成推進基本計画」

既存・新規事業者の取組み支援による民間リサイクル処理能力の確保など、食品リサイクル事業の着実な推進

<市内のリサイクル業者「楽しい株式会社」の事例>

排出元

事業所

- ・ 医療センター
- ・ 本庁舎の食堂
- ・ 野菜の卸売関係

搬入



リサイクル(堆肥化)

リサイクル業者
楽しい株式会社

堆肥



農業



○処理能力 4.5トン/日 (年間1,300トン)
⇒ 年間80トンの堆肥を製造

削減目標について

「北九州市循環型社会形成推進基本計画」

- H21年度比で、H32年度までに
- ・家庭ごみを約7%削減
 - ・事業系ごみを約8%削減

※食品ロス単独の目標は未設定

※事業系ごみには、産業廃棄物は含んでいない

北九州市中央卸売市場

場内-場外官民一体となった青果物残渣地域循環圏

〈平成29年度環境省低炭素型廃棄物処理支援事業(地域循環圏)〉

平成30年11月12日

北九州市卸売市場協会

北九州市 産業経済局・環境局

農業生産法人内日三町生産組合

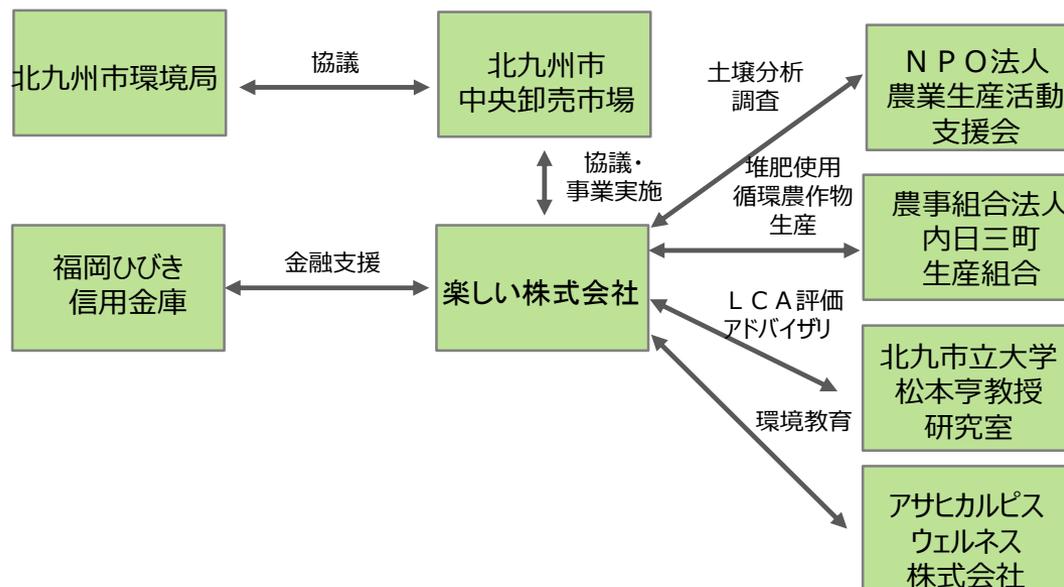
楽しい株式会社

事業概要

◆背景

- 楽しい株式会社では、北九州市環境局との連携のもと、北九州エコタウンを拠点として、低炭素型食品廃棄物地域循環圏形成に取り組んでいる。
- 北九州市中央卸売市場においては、事業系一般廃棄物を年間推定750トン出しており、廃棄物の減量化は進んでいない。

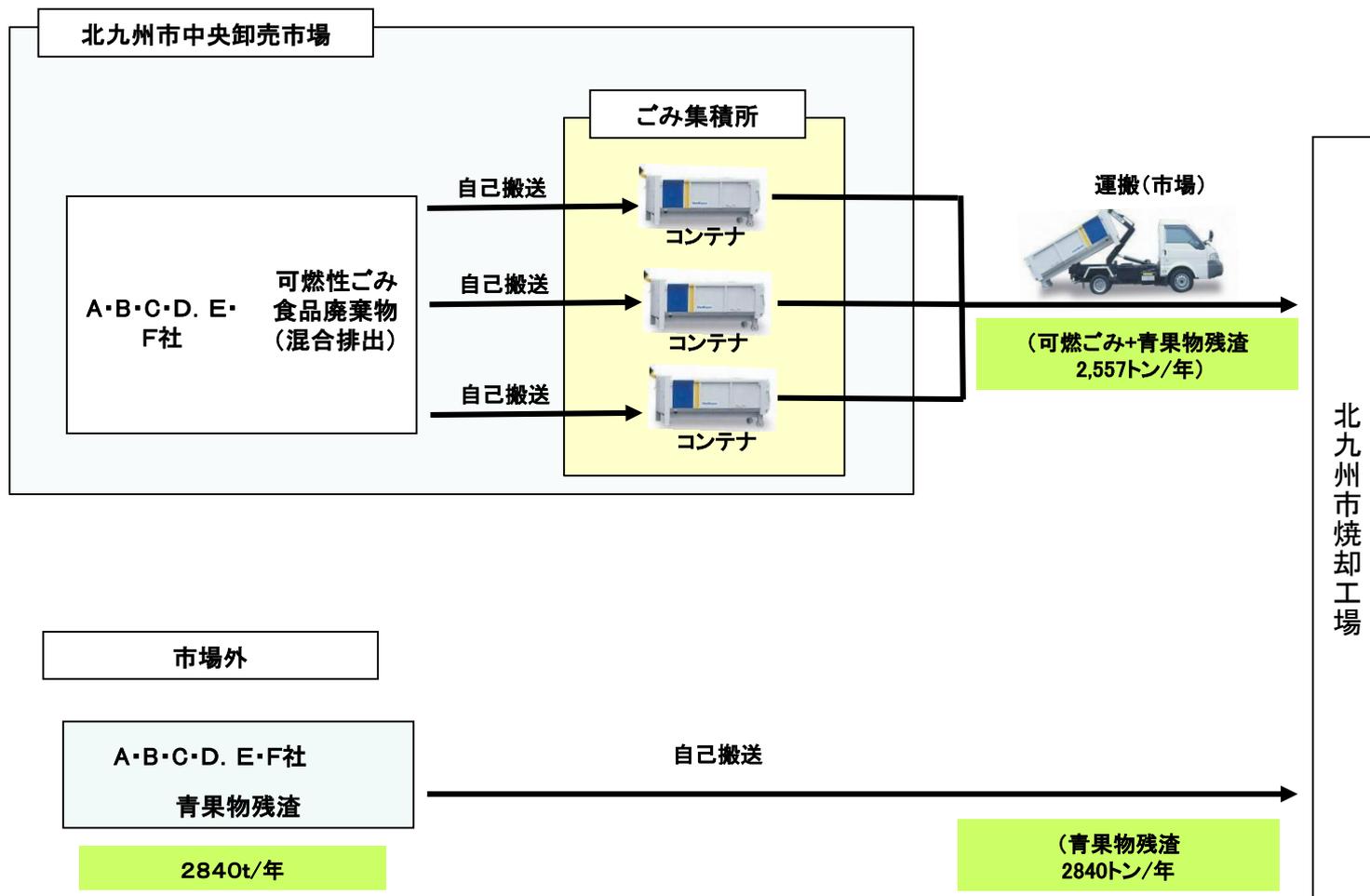
◆事業実施体制



◆目的

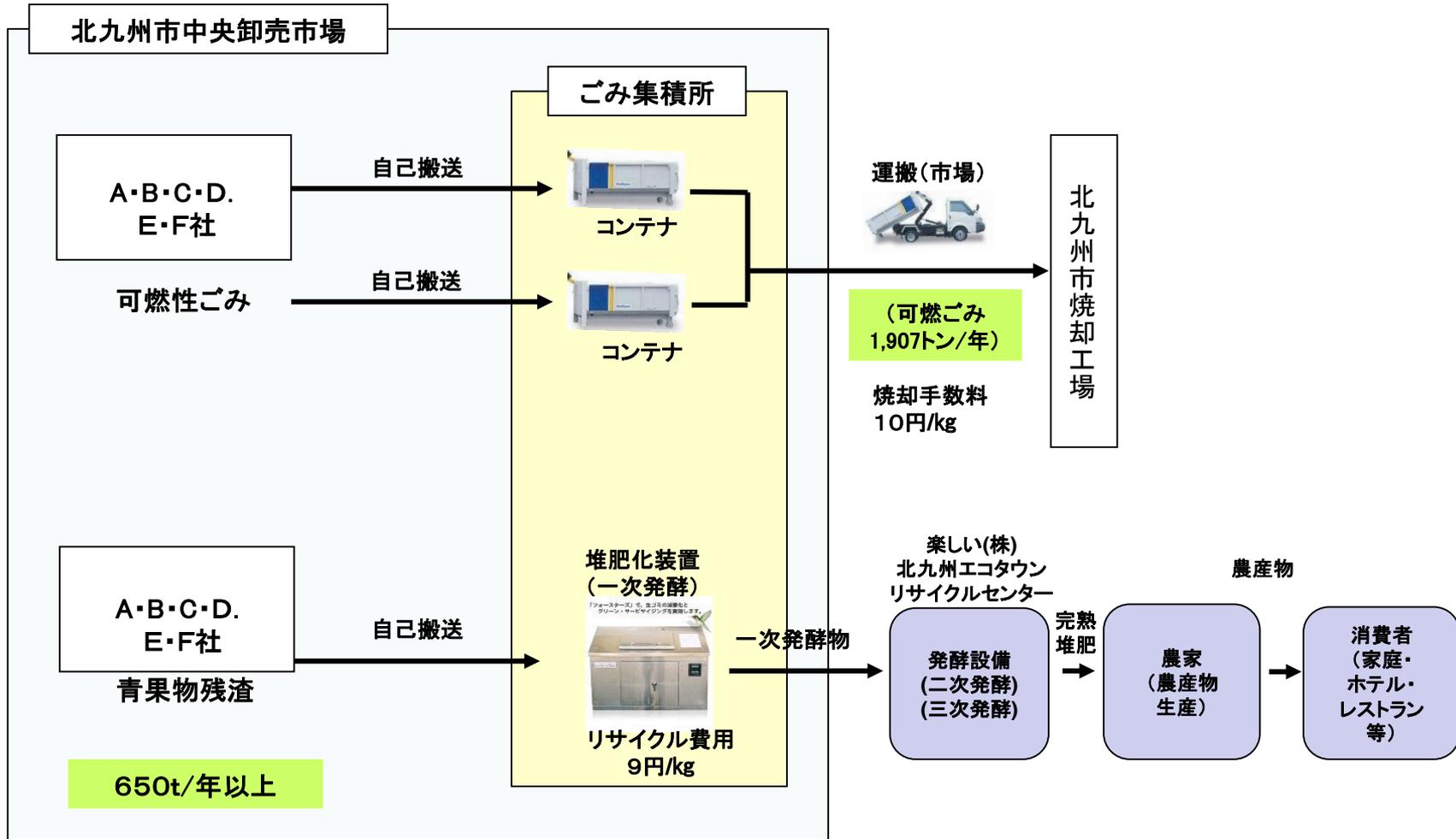
- 楽しい株式会社が持つ北九州エコタウン施設との連携により、北九州市中央卸売市場から発生する青果物残渣のリサイクル、青果物残渣処理経費の削減、CO2の削減、リサイクルループの形成などによる「北九州市を中核とした地域循環圏構築」を目指す。
- 北九州市中央卸売市場での取り組みをモデルとして、全国の中央・地方公設卸売市場への情報の発信と提案を行い、全国において青果物残渣の削減や地域循環圏構築を推進していく。

《事業実施前》 市中央卸売市場の場内・場外における廃棄物処理の流れ



《事業実施後》市場の場内における廃棄物処理と青果物残渣処理の流れ

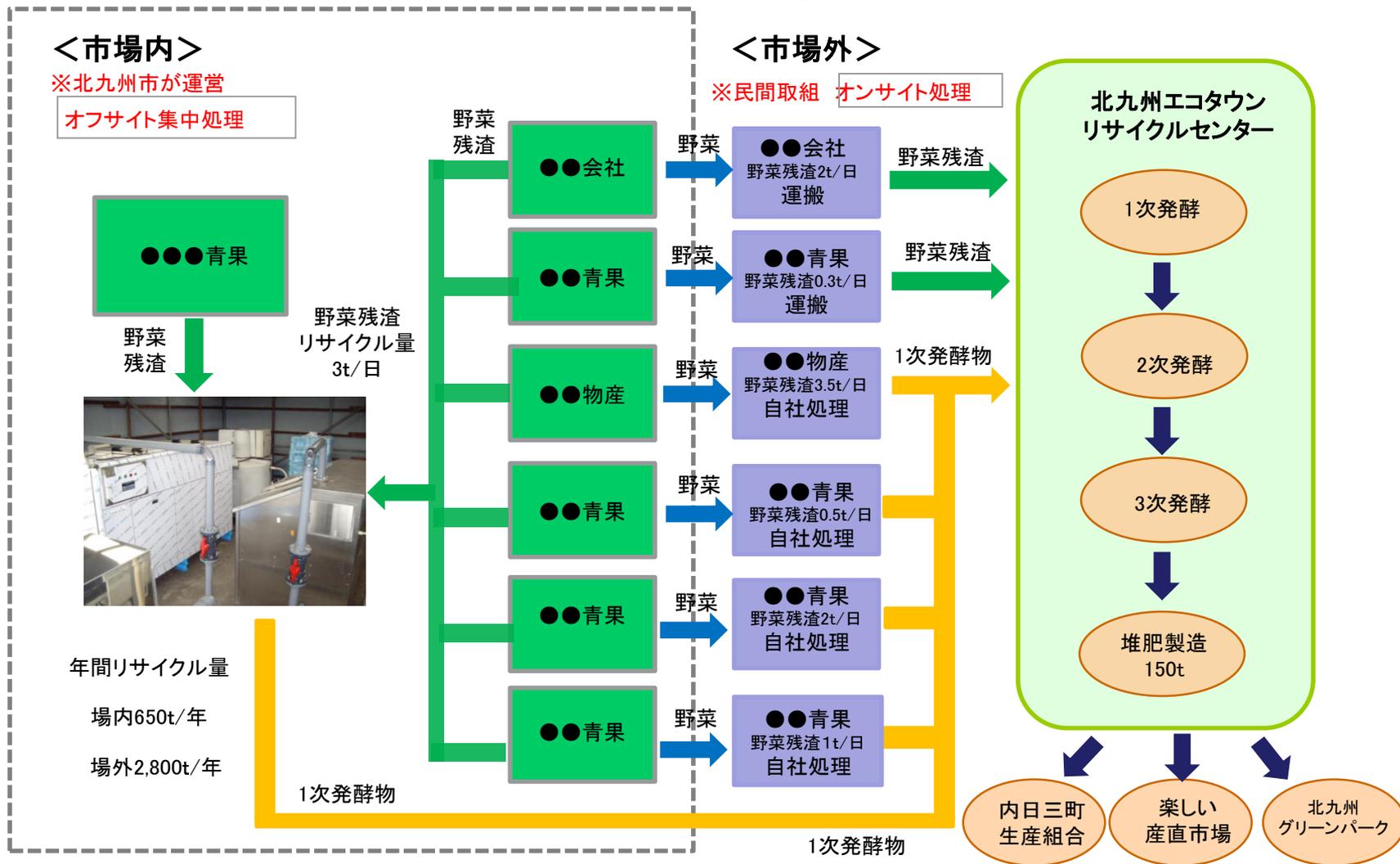
平成29年11月～平成30年2月 実証事業
平成30年4月～ 事業化



成果 場外・場内(オフサイト集中処理とオンサイト処理の組み合わせ)

平成29年度 環境省 低炭素型廃棄物処理支援事業(地域循環圏)

「北九州市中央卸売市場 場内・場外官民一体となった青果物残渣地域循環圏」



行政・市場事業者・農家・消費者との連携を深めてリサイクルループを構築

農事組合法人
内日三町（下関市）
生産組合



楽しい産直市場
（北九州市）



北九州市中央卸売市場
（北九州市）

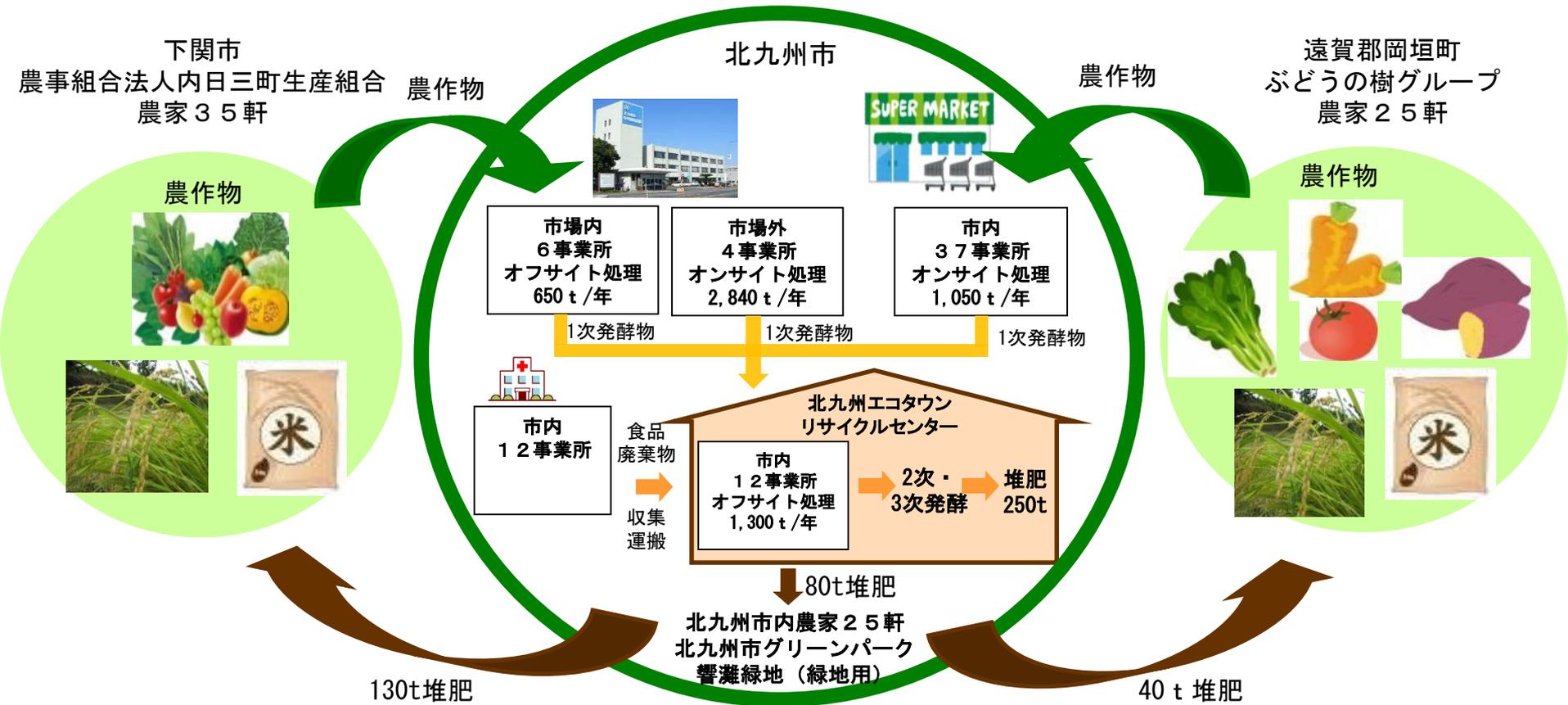


平成30年度は堆肥を130t使用し、循環米を65t生産（前年比130%）、すべてを北九州市内のリサイクルループに参加する事業所で消費予定。

地元スーパー「カーニバル」内にある地元農家の野菜を集めた産直の売場。店舗から発生する食品残渣をリサイクルし、地元農家28軒が堆肥を使用し循環野菜を栽培、産直市場に出品。
楽しい産直市場の年間売上20,000千円

市場の市民感謝デーにおいて、青果残渣からリサイクルされた堆肥を無料配布。食品リサイクルへの取組みの普及啓発に努めている。

北九州市を中核とした地域循環圏



北九州市内59事業所が参加して、5,840t/年の食品廃棄物を減量・リサイクルし、250t/年の堆肥を製造。市内及び近郊農家に提供し、循環農作物を北九州市に戻ってくる地域循環圏を形成。

参考(他都市・海外への普及)

千葉市地方卸売市場



※市場協力会(13社)が運用する
オフサイト集中処理

各事業所でごみを分別し、ごみ集積所に設置した生ごみ発酵分解装置に投入する

市場内
13事業所
分別

野菜残渣各社持込み



オフサイト処理

・野菜残渣(620トン/年)を堆肥化リサイクル

福岡市中央卸売市場

※民間取組オンサイト処理



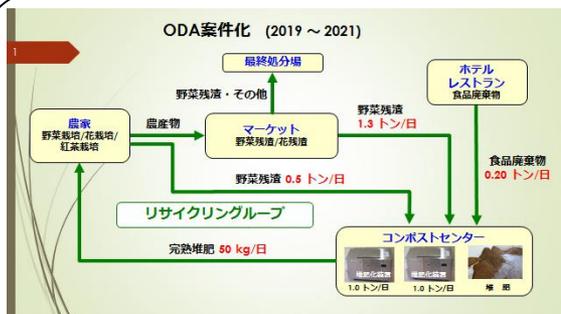
市場内
5事業所
オンサイト処理

市場外
9事業所
オンサイト処理



場内外14事業所が自前取組オンサイト処理
野菜残渣2,200t/年を堆肥化リサイクル

キャメロンハイランド(マレーシア)



北九州市の食のリサイクルループ構築の技術とノウハウをマレーシアに移転
2017~2018 JICA ODA案件化FS事業 (終了)
2019~2021 JICA ODA案件化普及実証事業(申請中)

パハン州キャメロンハイランド市は、標高1,500メートルを超える高原地帯で観光地。冷涼な気候を活かした農作物(紅茶、キャベツ、白菜、いちごなど)の栽培が盛んであるが、年間4,000tの青果物残渣が発生し、現状埋立処理を行っている。